

## 東京都・ボート 50 年 補遺

年 次	漕 艇 関 係 特 記 事 項
平成 10 年	2 月 創立 50 周年を迎える 4 月 日漕が「(社)日本ボート協会」に名称を変更 5 月 「社団法人東京都ボート協会」に名称を変更 8 月 第 1 回全国中学ナックル選手権大会を開催 (戸田オリンピックコース) 8 月 創立 50 周年記念式を開催 (於: 岸記念体育会館・ランドマーク) 10 月 マリーン・スポーツの祭典として「レインボウ・レガッタを後援 (於: 有明臨海副都心)
11 年	9 月 第 54 回国体 成年 M4 + (明治生命)、成年 W4 + (明治生命) で優勝 (熊本県)
12 年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国体新種目に対応する「舵手付クオドルプル」を 2 艇新造</li> <li>・ ウォーターフェア・レガッタ中学種目に「谷古杯」「網中杯」を設定</li> <li>・ 墨田、江東、葛飾、江戸川区教育委員会の後援を受けて「旧中川ボート教室」実施</li> <li>・ 荒川レガッタを墨田区「木根川橋コース」で開催 (たま国体会場を想定)</li> <li>・ 第 27 回シドニー・オリンピック大会開催、派遣 8 名中当協会所属選手 3 名出場</li> </ul>
13 年	5 月、8 月 旧中川ボート教室を開催 (江戸川区協会の全面的協力による) 7 月 22 日 江戸川区ボート協会が設立 8 月 19 日 江東区東砂 3 丁目地先に艇庫を建設 9 月 第 56 回国体 成年 W4 × + (明治生命) で優勝 (宮城県) 10 月 第 8 回荒川レガッタを荒川小名木川水門付近で開催 10 月 第 1 回谷古盾争奪戦を M8 + 及び W4 × + の 2 種目で開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三菱養和会体育館で「マシンローイング大会」を開催</li> <li>・ 三菱養和会からナックルフォア 2 艇の寄贈を受けた</li> <li>・ 中学種目を KF から 4 × + に変更実施、女子種目に 4 × + を追加</li> <li>・ 多摩川ボート教室を「多摩川でボートを楽しむ会」と共催で開催</li> <li>・ 競技者表彰として国体で優勝の明治生命「成年 W4 × +」を選出</li> </ul>

14年	<p>9月 第57回国体 成年W4+ (明治生命)、成年M2× (明治生命) で優勝 (高知県)</p> <p>10月 社会体育優良団体表彰 (文部科学省設定) を受賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技者表彰として国体で優勝の明治生命「成年M2×」を選出</li> <li>・ 三菱化学からナックルフォア1艇、三菱養和会からナックルフォア2艇の寄贈を受けた</li> </ul>
15年	<p>7月 「アウトドア・イン・アラカワ2003」行事にマシンローイング体験コーナーを開設・後援</p> <p>9月 「旧中川地域ふれあいレガッタ」を後援</p> <p>10月 水元公園試漕会を開催</p>
16年	<p>8月 第28回アテネ・オリンピック大会開催、派遣4名中当協会所属選手1名出漕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技システムの変更を含む競技事業の変更によりコスト削減を図る (各レースごとのプログラムを廃止し、年間パンフレットに切り替え)</li> <li>・ 東京都ボート協会としてのホームページを開設</li> </ul>
17年 (2005)	<p>4月 水元公園開園40周年記念「水元ボート教室」を開催</p> <p>7月 第60回国体関東ブロック大会を当協会主催で開催 (於・戸田)</p> <p>9月 第60回国体 成年M4+ (NTT東日本東京)、成年M2× (明治安田生命) で優勝 (岡山県)</p> <p>10月 第1回スカル選手権を開催</p> <p>10月 谷古茂盾争奪戦をマスターズレガッタに変更</p>
18年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学選手権に1×・2×種目を新設</li> <li>・ 岩淵水門ボート教室、水元ボートフェスタへ活動を拡大</li> </ul>
19年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社団法人制度改革への対応を検討</li> <li>・ 協会の事業運営体制・財政の健全化に着手</li> </ul>
20年	<p>8月 第29回北京・オリンピック大会開催、派遣4名中当協会所属選手1名出漕</p> <p>9月 第63回国体 成年M4×+ (明治安田生命) で優勝 (熊本県)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人への移行手続きとして所掌官庁との事前調整実施</li> </ul>
21年	<p>7月 世界U23ボート選手権でLM4-が銀メダル獲得 (スweep種目で初の快挙) クルー4名中3名が当協会所属選手</p> <p>9月 第64回国体 成年M4+ (明治安田生命) で優勝 (新潟県)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江東区の艇庫を墨田区に移築し、都立日本橋高校に寄付</li> <li>・平成 25 年東京国体に向け、開催準備・競技力向上・ジュニア育成を推進</li> </ul>
22 年 (2010)	<p>5 月 「一般社団法人 東京都ボート協会」に移行認可、新発足</p> <p>9 月 第 65 回国体 成年 M2× (明治安田生命)、M4 + (NTT 東日本東京) で優勝 (千葉県)</p> <p>11 月 広州アジア競技大会 LW1× (若井江利) で優勝、日本スポーツ賞を受賞</p>
23 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボート教室が「東大島・多摩川・水元・日本橋川・東墨田」の 5 拠点に拡大・実施</li> </ul>
24 年	<p>7 月 第 30 回ロンドン・オリンピック開催、派遣 5 名中当協会所属選手 3 名出漕</p> <p>7 月 第 67 回国体関東ブロック大会を東京国体リハーサル大会として実施 (荒川)</p> <p>9 月 第 67 回国体 少年 W1× (高橋かほ) で優勝 (岐阜県)</p>
25 年	<p>9 月 2020 年第 32 回オリンピックの東京開催決定 (プエノスアイレス)</p> <p>9 月 第 68 回東京国体開催 (11~15 日) (荒川) 台風による増水のため決勝レースは中止</p> <p>同着 1 位扱い: 少年 M2× (東京選抜)、M4× + (東京選抜); 成年 M4 + (NTT 東日本)</p> <p>W2× (明治安田生命)、W1× (首藤多佳子)、W4× + (明治安田生命)</p> <p>男女総合、女子総合とも 2 位となる</p>
26 年	<p>10 月 第 69 回国体 成年 M1× (高橋修)、成年 W2× (明治安田生命)、成年 M4 + (NTT 東日本) で優勝</p> <p>男女総合 3 位、女子総合 6 位 (長崎県)</p>
27 年	<p>7 月 2015 ユニバーシアード LW2X 富田 (明治) 優勝、LM4- 日本大学 優勝</p> <p>10 月 第 70 回国体 女子総合 3 位 (滋賀県・琵琶湖 (和歌山国体県外開催))</p>
28 年	<p>3 月 第 27 回全国高校選抜大会で M1X (江島凜斉・青井高校) が優勝</p> <p>5 月 第 38 回全日本軽量級選手権 LM2X で都立小松川高校が優勝</p> <p>8 月 第 64 回高校総体で M1X (江島・青井高)、W4X+ (小松川高校) が優勝</p> <p>10 月 第 71 回国体で成年 M4+ (NTT 東日本)、少年 M2X (江島・中川) が優勝</p> <p>男女総合 3 位、女子総合 6 位 (岩手県)</p>

一般社団法人 **東京都ボート協会 歴代会長並びに理事長(専務理事)**

	<b>会 長</b>	<b>専 務 理 事</b>
平成10年	輿 寛次郎 (東京大)	下 平 司 (早稲田大)
12年	〃	藤 野 洋 (中央大)
14年	東 晃 (東京大)	〃
20年	〃	檀 上 敏 夫 (東京大)

(注：平成6年3月以前は理事長、以後は専務理事)

(平成22年5月8日付で「一般社団法人 東京都ボート協会」に移行認可)

	<b>会 長</b>	<b>理 事 長</b>
22年	藤 野 洋 (中央大)	檀 上 敏 夫 (東京大)
25年	村 田 憲 彦 (日本大)	〃
27年	〃	月 村 繁 雄 (慶應義塾大)